

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その20）

～ 「アメリカドリームチーム」～

2020年6月吉日

U12部会広島地区SV 大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

さて、本来ならこの時期のホームページは、リーグ戦や全関西地区予選に関わる情報提供がされているはずですが、しかし残念ながら、今年はそれがありません。

今は、次回の、「今後の活動についてのお知らせ」が、例年通りの活動に近づくものであることを願っています。

とは言え、このU12部会ホームページに何も掲載されていないのもとても寂しいものがあります。そこで、何とかバスケットボールについての話題を発信したいと、私自身、皆さんが興味を持ってくださるような話題を探したり、過去を思い出したりしながら、勝手に孤軍奮闘しています。（笑い）

突然ですが、我が家のテレビに初めて衛星放送が映った時、最初に観たのがNBAの試合でした。画面で大暴れする、フィラデルフィア・76ersのチャールズ・バークレーの力強いプレイと風貌は、それはそれは衝撃的なものでした。

そして今回、スポーツ新聞の記事で目に留まったのが「本当に奇跡だった米ドリームチーム」という題のコラムです。

アメリカドリームチームって、皆さんご存知ですか？

今では、4年に1回行われる、オリンピックのアメリカ代表をドリームチームと呼びますが、私はそうではないと思います。私の中ではドリームチームは一つしかありません。

1988年のソウルオリンピック、アメリカは大学のスター選手でチームを編成して大会に臨みました。当時はそれでも金メダルは大丈夫だといわれていましたが、結果は銅メダルに終わりました。

そして4年後の、1992年のバルセロナオリンピックで、雪辱を期して編成されたのが、「ドリームチーム」です。そしてこのチームが「奇跡のドリームチーム」と呼ばれます。

ではなぜ「奇跡」と呼ばれるのでしょうか？ それはこのチーム以前、また以後において、この陣容、実力を上回るチームがないからです。そしてこれからもこれ以上のチームは現れないと思います。一時期にこれだけのメンバーが集うのはまさに「奇跡」だったのです。

このチームのすごさは一言では表せません。でもそのすごさを表す一つの例として、先日5月19日のニュースで、「マイケル・ジョーダン氏が1985年に使用した、ナイキ社のシューズ『エア・ジョーダン1』にサインを入れたものが、オークションで約6000万円で落札された」というものがありました。シューズ1足が、6000万円ですよ！！

これから、そのチームのメンバーを紹介しますが、多くのバスケットボールプレイヤー、

特に男子のプレイヤーは、この中の誰かに憧れてバスケットボールを始めたり、プレイをお手本にしながら練習をしたりしたのではないのでしょうか。

ではメンバーを紹介します。(紹介順は私の好みであり、背番号順ではありません)

マイケル・ジョーダン	シカゴ・ブルズ
スコッティ・ピッペン	シカゴ・ブルズ
カール・マローン	ユタ・ジャズ
マジック・ジョンソン	ロサンゼルス・レイカーズ
チャールズ・バークレー	フィラデルフィア・76ers
ラリー・バード	ボストン・セルティックス
パトリック・ユーイング	ニューヨーク・ニックス
ジョン・ストックトン	ユタ・ジャズ
クリス・マリン	ゴールデンステート・ウォリアーズ
デビット・ロビンソン	サンアントニオ・スパーズ
クライド・ドレクスラー	ポートランド・トレイルブレイザーズ
クリスチャン・レイトナー	デューク大学

おそらくバスケットボールに興味がある人、いや興味がない人でも、一度は耳にした名前がいくつかあると思います。本当に豪華メンバーですね。

では、ついでに3つの質問を。(正解は、次回のコラムで発表します)

- (第1問) このメンバーの中で、1984年のソウルオリンピックでも金メダルを獲得しているのは何人で、誰でしょう？
- (第2問) 大会のすべての試合で先発出場したのは何人で、誰でしょう？
- (第3問) 大会得点王の得点は、1試合平均、18.0点でした。さてその得点王は誰でしょう？

本当に奇跡だった米ドリームチーム

日刊スポーツ記者

92年バルセロナ五輪で、世界中の注目を最も浴びたのが男子バスケットボールの米国代表「ドリームチーム」だった。

88年ソウル五輪で金メダルを逃した米国が、威信をかけてNBAのスター軍団を送り込んだ。

主役は当時、全盛期を迎えていた「神様」マイケル・ジョーダンと、前年にエイズ感染を理由に現役引退し、五輪限定で復帰したマジック・ジョンソン。マジックは体調を考慮しながら、エイズ啓発のため出場を決断した。

2人を中心にNBAのトップスターが集合。映画「荒野の7人」や「オーシャ

ンズ11」のようなオールスターの集団は、ドリームチームと呼ばれ社会現象になった。

事前のモナコ・モンテカルロでの豪華な合宿。バルセロナ到着の際に使用された郊外の飛行場の場所はトップシークレット。同僚の社会部の記者となんとか探し出して駆けつけた。飛行場は武装した国家警察が警備を固め、パトカー5台の先導で、市内の高級ホテルへ直行。そのホテルも、建設費をNBAが出し、調度品もNBAが揃えたという話だった。

選手村でマジック、ジョーダンが出席した会見を取材した。バスケット部だった高校時代から憧れの存在と夢のような出会いだった。マジックとは1959年8月14日の誕生日も同じで思い入れは格別だった。会見場に向かうマジックと横並びになり、思わずその体に触れた。会見場では英語も話せなかったが前から2番目の席に座って、必死で話を聞いた。ジョーダンと目が合った時は、思わず目をそらしてしまうほど威圧感を感じた。

ドリームチームは予選からすべて100点ゲームで、すべての試合で30点差以上をつけて金メダルを獲得した。対戦相手は、試合終了の笛が待ち切れないように、ドリームチームのもとに駆け寄り、サインや写真撮影をねだっていた。

マジックは、決勝のクロアチア戦の前半、唯一逆転を許した場面に登場し、華麗なプレイで再逆転の流れをつくった。優勝が決まる直前、ベンチで真っ先に立ち上がり、コートの間を鼓舞する姿が印象的だった。

バスケットボールの認知度は当時日本ではあまり高くなかった。決勝の試合取材は世界中のメディアの抽選になったが、日本国内では事前の予備抽選で手を挙げたのは日刊スポーツと共同通信だけだった。

ドリームチームの活躍と注目度が五輪へのプロ参加の本格的な流れをつくった。

ドリームチームは、その後の五輪でも結成されたが、現在に至るまで92年の陣容、実力を上回るチームはいない。

このようなメンバーで行われた決勝戦の取材を、日本国内で希望したのが日刊スポーツと共同通信の2社だけというのも、ある意味衝撃的です。それだけ、まだ日本国内ではバスケットボールの認知度が低かったというわけです。

現在、八村塁選手の取材に多くの日本メディアが殺到したり、Bリーグの試合が盛り上がる様子を見たりする時、日本においてもバスケットボールが人気スポーツになったなど実感できますね。

<追伸> NBA に関しての私への問い合わせはご遠慮ください。(笑い)

NBA については、井口小学校の吉武教頭先生や、伴東ミニバスの入川コーチがよくご存じですので、そちらにお聞きください。よろしく願いいたします。